

## □「防災まちづくり大賞」をいただいて10年

墨田区・一寺言問を防災のまちにする会

事務局長 佐原 滋 元

私たちのまちは、1985年(昭60)に東京都の「防災生活圈モデル事業」の対象地域に指定され、その事業を担う団体として、町会と有志の住民による「一寺言問を防災のまちにする会(通称一言会)」が結成されました。このモデル事業は、3年間の事業でしたが、2年間の延期とその後も数年間墨田区独自の助成事業として続けられました。

ちょうど第一回「防災まちづくり大賞」をいただいた1997年(平9)の頃は、すべての公的な支援が無くなった時期と重なりました。

そもそも、「一言会」が描いた「防災まちづくり」の構想は、防災はもとより「子供や孫達に誇れる、すごしやすいまちを創っていこう」というもので、約100年後の姿を目指したものでした。また、燃えにくいまちを作ることも大切ですが、いざというときのまちの人々の繋がりを大切にしていけることを重視したものでした。

昨年、防災まちづくりの会が発足して20周年を迎えることができましたが、その間、マンションなどの耐火建築は増えたものの、まだ多くの木造住宅や細街路が残っていま

す。

残っている木造住宅には、いわゆる災害弱者と呼ばれるお年寄りの単身者が多い反面、隣近所のお付き合いは、昔ながらの豊かな助け合いが見られます。しかし、防災上は結構なことですが、マンションや建て替えが終わった、いわゆる燃えにくい建物に住んでいる皆さんの中には、自分の住まいが壊れない・燃えにくい事があるのでしょうか、防災についての無関心が多く、近隣とのお付き合いも非常に薄いという傾向も見られます。

私たちのまちでは、従来より町会や消防団や区役所が組織した消防隊などの活動が活発で、防災や消火などの地震や火災などの災害に対処する訓練などは比較的实施されています。「一言会」の活動から数年後、いざという時に避難拠点となる小学校単位の防災拠点会議といわれる連絡会議も組織されました。

「一言会」は主にまちづくり、拠点会議は被災時に対処するため仕組みづくり、町会は日常の地域生活、消防団や消防隊は火災対応や救急など、各々固有な活動目的と内

容を持っています。これらの組織体は行政の縦割り体制に応じて設けられた傾向が強いのですが、地域の中では、「一言会」をはじめ、複数の団体に重複して所属している人も多く、相互の情報交換はこのような人材をとおして比較的スムーズにできています。

むしろ、自分たちのまちの様々な課題を解決するために、どのチャンネルを通していけば効率よく解決されるのか、そのようなために地域の組織を活用しているような感じもします。その中で「一言会」は、他の組織に比べて、メンバーは少ないのですが、日常的な活動よりも、課題を提案・調整する役割が期待されているようで、様々なイベントの企画や行政からの問い合わせ等が持ち込まれてきます。

すでに「一言会」に対して公的な援助がなくなりましたが、概ね月に一回の理事会を開き、まちづくりに関わる様々な情報交換と問題の解決に取り組んできました。その間、独自にまちの中に物を作ることはできなくなりましたが、まちの活性化につながる多くのイベントなどに協力・共催してきました。

発足当時から続く事業に「防災まちづくり瓦版」の発行があります。本来なら年間3回程度は発行したいのですが残念なことに1回～2回程度の発行となっています。

内容は地域内のまちの活性化につながる色々な活動の紹介が中心ですが、貸し農園(一坪程度)や貸し花壇の利用者募集、まちにいらっしゃった見学者の紹介などが紙面を飾ります。

滞りがちの発行ですが、まちの皆さんの中には、地域の情報紙として楽しみにしている方も多く、しばしば「瓦版はどうしたの?」というようなありがたいご叱責をいただくこともあります。

その他の主な仕事としては、これまでに作った施設の管理やクレームへの対処があります。ささやかな事柄は「一言会」の理事や町会が対応しますが、修繕などの大きな事柄については行政とともに対処に当たっています。

昨年度、墨田区では「まちづくり協議会」等への助成制度を整えました。瓦版の発行資金にも事欠く「一言会」としてはすぐに申請手続きを行い、第一号に指定していただきました。現在、このような新しい援助システムを備えていただき、また、20周年の節目を迎え、さらなる活動を検討し、いくつかの新事業を立ち上げました。

その一つは、中学生が自分たちの住んでいる地域の町会などの主催する防災訓練に参加を促す「防災訓練参加証」の発行です。

3年ほど前に、私たちのまちで実験的に行われた「震災復興模擬訓練」という事業がありました。自分たちのまちが震災に襲われた後、どのようにしてまちを復興していったらいいのか、模擬的に検討していこうという事業です。

いくつかのグループに分かれて、様々な課題について議論を進めましたが、その中で、「帰れない」とか「速やかに仕事に復帰しなければいけない」サラリーマンが多くなった現状の中で、地域の復興に大きな力

になると期待されている世代が中学生や高校生の子供でした。

しかし、昨今、学校選択の自由化と言うこともあり、中学生の地域離れは著しく進行してきました。

この流れを防ぐため、町会などの地域防災訓練の主催者が、中学生に対して「防災訓練参加証」を発行し、中学校の教育課程の中にある「社会活動」や「奉仕活動」の一環として評価していただくというものです。

防災訓練等が開かれるのはほとんどが休日ですが、現在の中学生は塾などに通って忙しかったり、家庭でも学業や学校行事以外のことには子供達の参加を促しません。

このような現状の中で、地域での防災訓練自体が学業の一環であると位置づけられることは非常に大きな意味を持っていると思っています。このような動機付けの中で、地域の防災組織や大人達と交流することは、もしもの時に非常に役立つと考えられます。現在、私たちのまちが標準校区となっている中学校の校長先生方にはご理解をいただきつつありますが、学校選択自由制という制度の中では、この事業を全区的に進めなければならないという課題を解決していきたいと考えています。

もう一つは、「路地園芸」の推進です。

私たちのまちをはじめ、墨田区の向島地区は多くの路地で玄関先、軒先での鉢物栽培が盛んで、このような路地の緑を「路地園芸」と呼ぶことにしました。私たちのまちを訪れた皆さんは、この「路地園芸」の豊かさ、きめの細かさに感激されます。

狭い路地に植木鉢が並んでいる姿は、し

ばしば避難路の邪魔物と言われますが、近隣関係の潤滑油としての役割は非常に大きなものがあります。

本来なら、樹木の帯が防火の壁になるのですが、庭がほとんどない私たちのまちでは無理な話です。むしろささやかですが、まちの中の自然と、それを取り巻く近隣関係の豊かさを、「路地園芸」を再確認する中で、これからのまちづくりに役立てようと考えました。

今年度は、アンケート調査と現地調査を実施しました。来年度は、具体的な路地を対象にしてモデル的な「路地園芸」を作りたいと考えています。

「一言会」では、まちづくり大賞をいただいた時にも評価していただいた「路地尊」など、自分たちでは普通に思っていたことが、世の中の皆さんから評価していただき、そのことが自分たちのまちを再確認してきたような歴史があります。「路地園芸」もそのような評価をいただきつつあります。安心・安全とともに快適なまちの一要素として「路地園芸」の在り方を考えていながら、これからのまちづくりも進めていきたいと考えています。

その他、避難に関わるアンケート調査を実施しました。この成果は、防災拠点会議の資料として活用していただくことにしています。

また、20年前と現在を比べるような地図の作製を進めようとしています。この地図作製を通し、地域の歴史とともに、まちに住んでいる皆さんの意識と協力でまちが形成されることが見えてくることを願っています。

す。

最後になりますが、幸いなことに震災もなく、20年目を迎えることができました。

20周年の記念式典で、「一言会」立ち上げ当時の担当部長さんが冗談交じりで「まさか20年を迎えるとは思っていなかった」とお話されていました。彼はもう退職されて

久しいのですが、ふるさとの帰ってきた時のように和やかに一時をすごされました。

「一言会」としては、このまちが、現在住んでいる皆さんをはじめ、引っ越してまちを去った方、新しくいらした方、そして、このまちに関わったすべての方々が、ふるさとと感じられるまちにしていきたいと願っています。

表1 一言会の主な歩み

(2005/10現在)

1985年(昭60) 4月	東京都「防災生活圏モデル事業」指定
〃 9月	機関誌「防災まちづくり瓦版」第一号発行
〃 10月	芝居「おお!まちづくり」上演
86年(昭61) 9月	防災イベント「一言まつり」開催
87年(昭62) 3月	「路地尊1号基」(東向島3)設置
〃 6月	墨田区に対し「防災まちづくり計画」提案
88年(昭63) 3月	「路地尊2号基」(貯水量3トン・向島5)設置
〃 3月	墨田区が「一寺言問地区整備計画」提示
89年(平元) 4月	「防災小緑地 向島有季園」・路地尊3号基(貯9トン・向島5)整備
90年(平2) 3月	「旧墨堤の道」(東向島3 子育て地藏~白鬚神社)整備
〃 3月	「防災まちづくり衆会(フォーラム)」開催
91年(平3) 5月	「寺島の道」(東向島3 百花園前)整備
〃 5月	「会古路地(エコロジ)」・路地尊4号基(貯10トン)整備
〃 5月	日本建築学会「文化賞」受賞
92年(平4) 4月	「デッキスクエアー」(向島5 桜橋東詰)整備
〃 5月	「はとぼと」・路地尊5号基(貯3トン・東向島1)整備
93年(平5) 4月	東京都「防災生活圏促進事業」導入
94年(平6) 4月	「三とも通り」(向島5 言問小学校西側通学路)整備
〃 8月	第1回「雨水利用国際会議」参加
96年(平8) 4月	「一言集会所(まちづくり広場併設)」 ・路地尊6号基(貯20トン・東向島1)開所
97年(平9) 3月	第1回「防災まちづくり大賞」 ものづくり部門「自治大臣賞(第1席)」受賞
98年(平10) 7月	「向島国際デザインワークショップ」共催
2000年(平12) 10月	「向島博覧会」共催
01年(平13) 3月	「一言地区空き地空き家調査」実施
〃 11月	「アートロジー向島博覧会2001」共催
03年(平15) 1月	一言集会所「花壇整備員」制度発足
〃 8月	「打ち水大作戦」参加
〃 8月	「震災復興模擬訓練」実施(全6回)
04年(平16) 8月	「打ち水大作戦」参加
〃 10月	「向島キャラバン」参加
〃 12月	「震災復興模擬訓練」実施(全3回)
05年(平17) 10月	「一言会発足20周年記念式典」開催